

# 食べること、飲み込むこと

## せっしょくえんげきのう (摂食嚥下機能) が心配な方へ

加齢や薬の副作用、病気の影響などによって、食べる機能、飲み込む機能が低下することがあります。機能の低下に気づかず過ごすうちに、誤嚥性肺炎ごえんせいはいえんや窒息ちっそくを起こしてしまうことがあります。機能低下のサインに気づき、対処することが大切です。

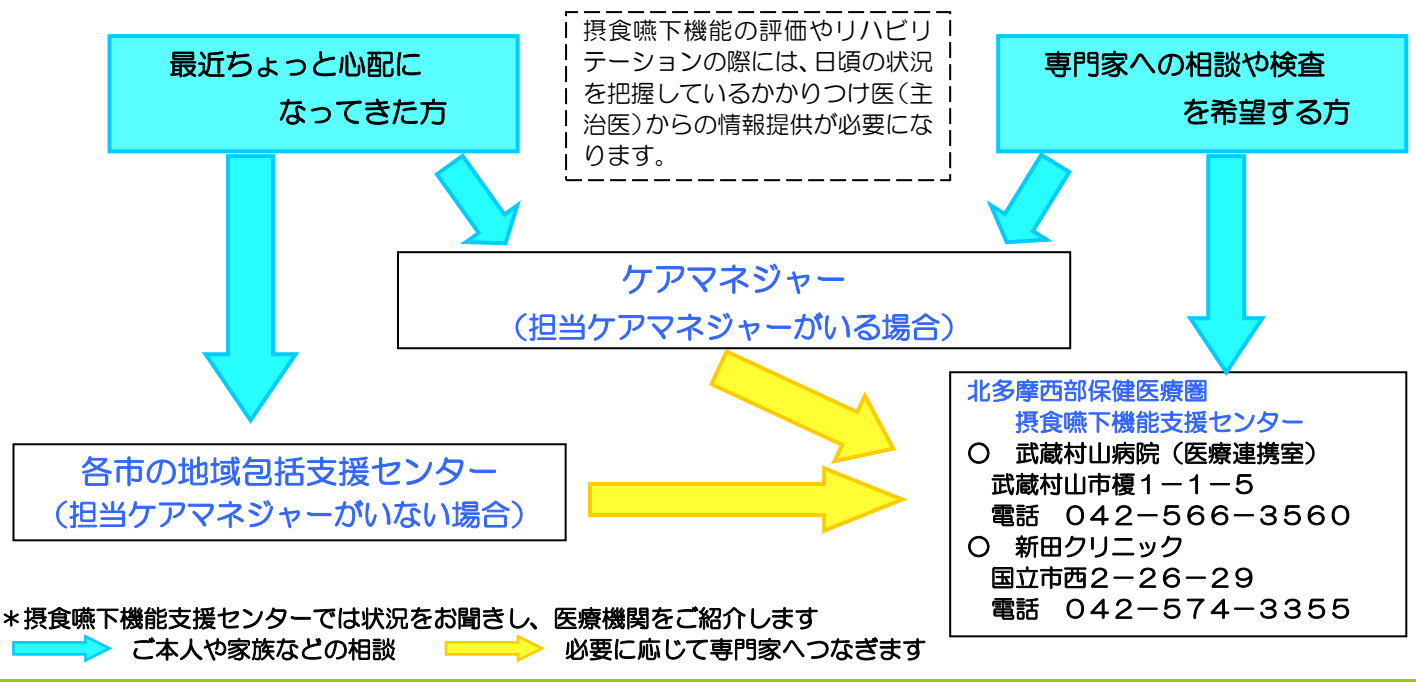
### 日頃の生活で思いあたることはありませんか？



- ① 食事中にむせることがある
- ② 唾液が口の中にたまる よだれがでる
- ③ 飲み込むのに苦労することがある
- ④ 固いものが噛みにくくなった
- ⑤ 舌に白い苔のようなものがついている
- ⑥ 声が変わった(がらがら声)
- ⑦ よく咳をする
- ⑧ 食事を残すことが多い(食べる量が減った)
- ⑨ 体重が減った(この1ヵ月で5%以上、半年で10%以上)

初期の機能低下の場合、市やデイサービスの介護予防事業などで、機能の低下の予防や改善が可能なことがあります。

### 食べること・飲み込むことの心配ごとは、どこに相談したら良いですか？



脳卒中や高次脳機能障害で胃ろうを造った場合、徐々に食べる機能や飲み込む機能が回復してくることがあります。かかりつけ医、かかりつけ歯科医をはじめ上記の相談場所にご相談ください。

## 摂食嚥下機能の評価やリハビリテーションは どのようなことをするのですか？

### 【評価】

医師、歯科医師が摂食嚥下機能を評価するために問診・視診・触診・検査・食事観察などを行います。



\*自宅で嚥下内視鏡検査を行っている様子

診断  
治療(リハビリ)計画

### 【摂食嚥下リハビリテーション】

医師、歯科医師のほか

- ◆言語聴覚士
- ◆歯科衛生士
- ◆看護師・准看護師
- ◆理学療法士・作業療法士
- ◆管理栄養士

が行います。

#### 《内容》

- 食べたり、飲み込んだりするための筋肉のリハビリテーション
- 唾液を出すためのトレーニング
- 口腔ケア
- 食事姿勢、食具の選び方や使い方の指導
- 食形態の指導 など

各職種の専門に応じた指導を行うことにより、患者さんの安全、安心な食事をめざします。

### 評価が受けられる場所

- ① 病院や診療所の外来で評価します。
- ② 受診困難な場合は訪問により在宅で評価します。

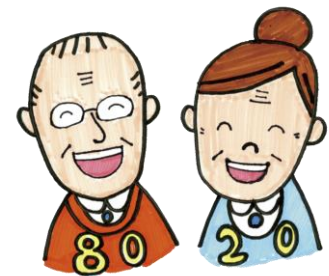
## 摂食嚥下機能の評価やリハビリテーションは保険が使えますか？

### ◆評価・診断◆

医療保険が使えます。

検査の内容により費用が変わります。

\*同時に別の処置が行われた場合には、別途費用がかかります。



### ◆リハビリテーション◆

患者さんの条件によって、介護保険または医療保険が使えます。

リハビリテーションの内容や費用については、医師、歯科医師、ケアマネジャー等にご相談のうえ、ご確認ください。